

# 資源管理基礎調査（種苗放流）

## （要約）

鈴木亮

### 目 的

青森県資源管理指針に掲載されている魚種のうちウスメバルとマダラを対象とし、前者については陸奥湾へ来遊する稚魚の動向と移動分散を、後者については稚魚の移動分散を調査する。

### 材料と方法

#### 1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 28 年 5 月から 6 月にかけて、青森市内地区及び後潟地区のホタテ養殖施設に、浮玉に海藻（アカモク 1 種）を装着したウスメバル稚魚採集用トラップを設置し、トラップ浮体に蝸集する稚魚を船上からタモ網で採集した。

#### 2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

当研究所で中間育成したウスメバル 2 歳魚に標識（黒色結束バンド）を装着し、平成 28 年 6 月 28 日に東通村尻労地先に放流した。

#### 3. マダラ（移動分散）

平成 28 年度は標識放流用種苗を確保することができず、標識放流を中止した。

### 結 果

#### 1. ウスメバル（陸奥湾来遊稚魚の動向）

平成 28 年度のウスメバル稚魚の採集尾数は 35 千尾であり、平成 27 年度を下回る結果となった。採集時期については、平成 27 年度同様に 5 月に集中していた。また、採集したウスメバル稚魚の平均全長は 14.2mm と、6 ヶ年（平成 22 年～27 年）平均 27.0mm と比較して小さかった。

#### 2. ウスメバル（稚魚の移動分散）

平成 26 年度に採集し当研究所内で中間育成した、平均全長 145mm の 2 歳魚 1,000 尾（内標識魚 800 尾）を、平成 28 年 6 月 28 日に東通村尻労地先へ放流した（図 1）。

#### 3. マダラ（移動分散）

平成 28 年の種苗生産の過程で背骨が湾曲する奇形（図 2）が発生し、生産を中断したため、種苗放流に至らなかった。



図 1. 黒色結束バンド装着魚

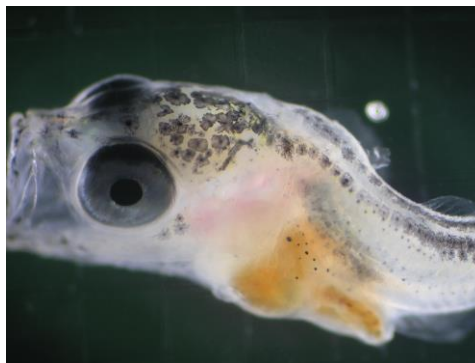


図 2. 背骨が湾曲している個体